



平成23年度 北中物語
第2号(平成23年4月12日発)
文責:校長 中村 裕子

始業から4日、皆元気！

平成23年度始業の日、新任式・始業式、そして222名の新入生を歓迎する入学式そして学級開き…4月7日は子どもたちにとってまさに新しい自分への花道でした。これまでの数日間は、諸々年度初めの活動が行われましたが、このすべてが子どもたちの「学校での基地づくり」のためのものでした。

どうぞ、ご家庭では、毎日毎日、疲れて帰る子どもたちの「力蓄積の基地」となり、力を与えて翌日学校に送り出してください。私たちはそれをしっかり引き受け、数倍の力にして、お子さんをご家庭にお返します。

平成23年度始業の日、校長として、子どもたちに次のようなことを話しましたのでご承知ください。

【始業式】

- 新年度にあたっての願いや夢は、その達成に向けて「行動」を起こしてこそ、意味がある。行動の伴わない願いを願いとは言わない。
 - 願いや夢の実現に向けて、途中には苦しいことが必ずある。しかし中学生時代はその苦しさを体験する時代でもある。中学生時代は苦しくて当然なのである。この時期に苦しさを経験しないでいつするのか…。
 - 苦しさを経験し、その苦しさの中で努力することで、何かが変わってくる。その何かを「成長」という。
 - 北中の教職員は、みんなのために、絶大な応援をする…。

【入学式】

- 中学時代は「どんな大人になるかが決まる時期」である。人生の70%が決まるという。
 - 中学生時代に努力することを経験した人は、大人になっても努力ができる人になる。中学生時代に思いやりや優しさを体験した人は、大人になっても人から慕われ、豊かな心で生活できる。
 - 「自分はどのような中学生になりたいのか」、少々の苦しさには負けない中学生になってほしい。
 - 北中の教職員、上級生は、全員が1年生の応援者になる…。

この2つの式辞で伝えたかったことは、「学校は、歯を食いしばってがんばるところ」ということです。学校が楽しい場所であることが望ましいのは十分承知していますが、あえて、本年度はこの「苦しさに向かえる子ども」を育てていきたいと考えています。

ですから、もしかしたら、子どもたちが「泣いて帰る日」があったとしてもそれは、この時期の子どもにとっては、自然なことなのではないかと思えます。そして、それにどう関わっていくかが、私たち職員や保護者の皆様の役目ではないでしょうか。また、その関わりは、単に慰めや叱るだけでなく、もしかしたら、「無視する(ふりをする)」という手もあるかもしれません。そうした関わり方について、もちろん私たち職員も情報交換しながら、手を探ります。また保護者の皆様とも相談しあいながら、その子にとってのよい道と一緒に探していけるよう努めていきたいものです。

一人一人のお子さんのたくましい成長のために、
学校へのお力添えを改めてお願いいたします。



部活動、楽苦しく(楽しい+苦しい)

一時期、「楽しく」という言い方が「楽」と混同して誤解されたことがあった。選手は苦しいけど、相手を抜いたときの楽しさ、ボールを奪ったときの愉快さが本当の楽しさなんですよ。

前 日本サッカー協会理事長 川淵三郎 氏

この言葉は、川淵氏が新聞のスポーツキャスターとの話し合いの中で述べた言葉の1つです。日本サッカー協会は、「2005年宣言」で壮大な目標、-2050年までにワールドカップで優勝する-を受けてアジア最終予選の展望などを話し合いました。

「選手は、自分たちのプレーが多くの人に喜んでもらえる。結局、それが自分に跳ね返ってきて苦しみながらでなく、楽しみながらプレーして勝利を引き寄せお客さんに喜んでもらう。そしてまた努力し頑張っている・・・」と語り、続けて標記の言葉を話していました。キャスターが、「スポーツを運動という言い方をすれば、イコール鍛錬というイメージが長くありました」と言うと、「スポーツだから遊びの要素も必要です。鍛錬・我慢・苦しい・頑張る・・・だけでないのです。練習は苦しいに決まっていますが、その中でどう楽しみを見つけていくのか、その中でどう自分を変えていくのかです」と。



このこと、スポーツの世界だけではなく、勉強にも仕事にも言えることです。部活動、苦しいだけでは続きません。苦しいだけでは、毎日毎日頑張れません。活動の中で教員との触れ合いや友達とのかかわり合い等が苦しさを支えているのでしょう。そして結果としての好成績や目標達成が・・・。

本日、本校では全教職員で「部活動のあり方」を確認し合いました。全ての顧問教師が専門的な技術を持って指導しているわけではありません。しかし、指導技術以上のもの、それは「生徒たちの思いに伝えたい」という熱い思いを全員が持っています。どうぞ、北中学校の部活動、お子さんの部活動に表立って(陰ながらでなく)応援してください。そして、自分の時間を犠牲にして部活動指導にあたっている教員を後押ししてやってください。

中学生時代の部活動、いかに時代が変わってもその意義は大きく変わらないのです。

お知らせ



群馬県の小中学校では、4/15に転出した教職員と子どもたちのお別れの場である「退任式」が行われます。本校では当日、13時05分から体育館で開催いたします。

本年度、本校では、この退任式を公開することといたしました。保護者の皆様のなかで参観を希望される方は、遠慮なくお越しください。体育館後方に席を用意いたします。

お別れと感動を生徒と共にどうぞ・・・

お願い

☆学力向上の基本中の基本「忘れ物」の根絶に向けて配慮ください。忘れ物した子どもは例外なく、その日頑張れません。

「もう中学生だから」ではなく、できないことには、手や心をかけるのは親として当然のこととして行動を起こしてください。こういう基本の「基」を大切にいきましょう。

☆後日、詳細についてのご案内をいたしますが、来る4月27日(水)は年度初の学校公開です。授業参観、PTA総会、懇談会等が行われます。お仕事等、午後のご都合を今から調整していただき、ぜひぜひ、ご来校ください。